

令和5年度行政事業レビューシート ( デジタル庁 )

<b>事業名</b>	政府職員等属性情報管理基盤			<b>担当部局</b>	省庁業務サービスグループ	<b>作成責任者</b>	
<b>事業開始年度</b>	令和4年度	<b>事業終了(予定)年度</b>	終了予定なし	<b>担当課室</b>	職員ID基盤	山本参事官	
<b>会計区分</b>	一般会計						
<b>根拠法令(具体的な条項も記載)</b>	デジタル社会形成基本法第27条～第30条			<b>関係する計画、通知等</b>	デジタル社会実現に向けた重点計画(令和5年6月9日閣議決定)		
<b>政策</b>	情報通信技術等の適正・効率化に関する施策の推進			<b>主要経費</b>	その他の事項経費		
<b>施策</b>	情報システムの整備						
<b>政策体系・評価書URL</b>	https://www.digital.go.jp/policies/assessment/						
<b>事業の目的(5行程度以内)</b>	<p>現状の個々に構築されたID基盤・認証サービスのアーキテクチャを刷新し、職員ID基盤を実現する。職員ID基盤は、デジタル社会の実現に向けて、職員等が情報システムで業務を行う際のIDと認証機能を共通機能として提供する基盤である。職員ID基盤を整備することにより、次の効果を期待している。</p> <p>① ID・認証機能を共通機能として提供することにより、個々のID・認証機能の整備が不要になり、システムの短期間での構築に資することができる。</p> <p>② 一元管理された職員IDを基にした認証機能を提供することにより、複数の情報システムを利用する職員の業務が効率化できる。</p> <p>③ 政府・自治体職員、公務関連の民間事業者等について、本人の一意性を確保したIDを用いることにより、リボルビングドアを含めた多様な働き方に対応した人材管理が可能となる。また、情報保全強化の観点からも一元管理された職員IDは有益と考える。</p> <p>④ 統合的な職員ID基盤により、複数の情報システムでのID利用者の操作に対する運用監視が高度化され、職員IDを乗っ取った侵入者の検知を容易にする。</p>						
<b>現状・課題(5行程度以内)</b>	<p>これまで、政府職員の属性情報は各府省の基盤情報システムで管理され、各府省の情報システムの認証に利用したり、数十万規模の政府職員に関しては職員等利用者共通認証基盤(GIMA)に属性情報が登録され、人事給与管理システムや文書管理システム等の政府共通システムで利用されていた。各府省での政府職員の基盤情報システムやGIMAにおいては、政府職員を自然人として本人確認した情報や一意に識別する情報がなく、同一の自然人が異なる府省庁として複数のアカウントを保有している場合もある。また、最近のパブリッククラウドを活用して、電子申請システム等を構築する場合、申請者側の属性情報管理や認証機能をマイナンバーカードやgBizIDを活用し、短期間で構築できるようになった。一方、電子申請を処理する政府職員等に関しては、パブリッククラウドに対応した属性情報管理や認証機能が存在しておらず、システム整備の負荷が高い。</p>						
<b>事業概要(5行程度以内)</b>	<p>2023年度には、政府職員等にIDを付与する際に本人の一意性を確保しながら、各府省で政府職員等の属性情報を管理するアーキテクチャの検討を行う。また、2024年度には、検討結果に基づいてデジタル庁と各府省庁の役割分担等を整理し、各府省庁においては移行計画の立案を目指す。2025年度には、デジタル庁の政府職員のデータベースを先行して整備し、基盤システムと職員認証IDが連携し、先行する情報システムで利用を目指す。(デジタル庁以外の府省への展開、地方自治体等への拡大は、2026年度以降に対応する方針であり、時期は未定。)</p>						
<b>事業概要URL</b>							
<b>実施方法</b>	委託・請負						
<b>補助率等</b>							
<b>予算額・執行額(単位:百万円)(インプット)</b>	<b>予算の状況</b>	当初予算(A)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度要求
		補正予算(B)	-	-	-	-	-
		令和5年度第1次補正予算	-	-	-	-	-
			-	-	-	-	-
			-	-	-	-	-
			-	-	-	-	-
		前年度から繰越し(C)	-	-	-	-	-
		翌年度へ繰越し(D)	-	-	-	-	-
		予備費等(E)	-	-	-	-	-
		計(F) =(A)+(B)+(C)+(D)+(E)	-	-	-	-	-
執行額(G)	-	-	-	-	-		
執行率(%) =(G)/(F)	-	-	-	-	-		
当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%) =(G)/[(A)+(B)]	-	-	-	-	-		
<b>令和5・6年度予算内訳(単位:百万円)</b>	<b>歳出予算項目</b>	令和5年度当初予算	令和6年度要求	主な増減理由(・要望額・予備費)			
	計(A)	-	-				

活動内容① (アクティビティ)		職員ID基盤の実現と、各府省の人材管理データベースとの連携を実現する。その上で本人の一意性を確保した職員IDを整備し、職員認証サービス(GIMA)を利用する24のシステム*へ認証サービスを提供する。(その後、さらに利用システムを拡大する。) *GIMA利用システムは、2023/3時点								
↓										
活動目標及び活動実績① (アウトプット)		活動目標	活動指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度 活動見込	6年度 活動見込
		職員ID基盤の実現と、認証サービス利用システムの拡大	認証サービスを利用するシステム数	活動実績	システム	-	-	-	-	-
				当初見込み	システム	-	-	-	-	-
↓		成果目標①-1の 設定理由 (アウトプット からのつながり)								
		現状は、職員ID基盤を実現するための要件が整理されておらず、実現性の確認もできていないため。 ◆調査研究事業：2023/3-2024/3 政府職員等にIDを付与する際に本人の一意性を確保しながら、各府省で政府職員等の属性情報を管理するアーキテクチャの検討を行う。 調査研究事業により、概念実証を基に整理した「アーキテクチャ文書」を作成する								
成果目標及び成果実績①-1 (短期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 5年度	
		整理した「アーキテクチャ文書」を基に内閣人事局をはじめとした府省関係者との将来像の検討に着手する(R5に方針を提示してR5年度内に合意する)	内閣人事局が主催する人材管理を担当する各府省が集まる会合で、「アーキテクチャ文書」を基に方針を説明する	成果実績	回	-	-	-	-	
				目標値	回	-	-	-	1	
				達成度	%	-	-	-	-	
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績		・定量的な成果指標の設定理由：新しい府省共通システムを志向しているため、整理した方針を府省関係者へ示し意見を求める必要がある。その関係者とのコミュニケーションを開始するにあたり対応方針を説明することを短期の目標としている。方針説明であるため1回の説明会を目標件数とした。 ＜現在の状況＞調査研究事業を開始するにあたり内閣人事局と相談し、アーキテクチャの方針を整理した後内閣人事局主催の会合で説明することで関係者との検討に着手していき、事業計画にスケジュールした。 ・成果実績の計測方法：会合での説明を行い会議議事録を残す。(会議欠席者への個別説明等の対応も含めて1回とカウントする。)								
↓		成果目標①-2の 設定理由 (短期アウトカム からのつながり)								
		調査研究事業(概念実証)の結果を基に、段階的に職員ID基盤を実現するため。 ◆システム整備(デジタル庁分の先行リリース)：2024/4-2026/3 R6(2024)年度にアーキテクチャを実現するためにデジタル庁と各府省庁の役割分担等を整理する。また、デジタル庁においては、職員ID基盤の設計・構築を開始し、職員ID基盤を利用する既存情報システムの改修も開始する。R7年度に先行するデジタル庁職員に対し、職員ID基盤と先行システムの認証サービスを提供する。								
成果目標及び成果実績①-2 (中期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 7年度	
		職員ID基盤の実現と先行導入するデジタル庁の人材管理情報との連携、並びに先行する利用システムへの認証サービス提供開始	認証サービスを利用するシステム数	成果実績	システム	-	-	-	-	
				目標値	システム	-	-	-	8	
				達成度	%	-	-	-	-	
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績		・定量的な成果指標の設定理由：現状、同様のサービスを提供している職員認証サービス(GIMA)の利用システムは24システムであり、そのうち本取り組みの先行リリース対象をデジタル庁所管システムとしている。GIMAを利用するデジタル庁所管システムが8システムであるため、その全てを目標とした。 ・成果実績の計測方法：本取り組みで実現する職員ID基盤の利用システムとしてシステム連携するシステム数をカウントする。利用システムのシステム改修を行い、職員ID基盤の認証サービス利用を実現したシステム数をカウントする。								
↓		成果目標①-3の 設定理由 (長期アウトカム へのつながり)								
		調査研究事業(概念実証)の結果を基に、各府省と調整を進めた後、各府省の人材管理情報との連携と利用システムの改修に着手するため。 ◆システム整備(各府省とGIMA利用システムの改修)：2026/7-2028/3 ①各府省の人材管理情報と連携する。②GIMA利用システム(先行分を除く)を改修する。③GIMA利用以外のシステム(希望者)を改修する。								
成果目標及び成果実績①-3 (長期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標最終年度 9年度	
		職員ID基盤の認証サービス提供開始(GIMA利用の24システム必達)	認証サービスを利用するシステム数(中期アウトカム分を含む)	成果実績	システム	-	-	-	-	
				目標値	システム	-	-	-	24	
				達成度	%	-	-	-	-	
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績		・定量的な成果指標の設定理由：現状、同様のサービスを提供している職員認証サービス(GIMA)の利用システムは24システムであり、先行リリース対象のデジタル庁所管の8システムを含めた全てのシステムにあたる24システムを目標とした。(超長期的には現状GIMAを利用していないシステムの利用も目指すが、GIMA利用システムは乗り換え時限もあるため、そちらを優先している。) ・成果実績の計測方法：本取り組みで実現する職員ID基盤の利用システムとしてシステム連携するシステム数をカウントする。利用システムのシステム改修を行い、職員ID基盤の認証サービス利用を実現したシステム数をカウントする。								
アウトカム設定についての説明		アクティビティ①について定性的なアウトカムを設定している理由								
		-								
		アクティビティ①についてアウトカムが複数設定できない理由								
		-								



令和4年度	2022	デジ	21	0001	31														
<b>資金の流れ</b> (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する) (単位: 百万円)		<div style="text-align: center;"> <pre> graph TD     A[デジタル庁] -- 委託 --&gt; B[民間事業者]           </pre> </div>																	
		費目・使途欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙2】に記載																	
																		チェック	

**支出先上位10者リスト**

支出先上位10者リスト欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙3】に記載																		チェック	
--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	------	--